

高崎市教育委員会定例会会議録

開 会 年 月 日

令和3年5月27日(木) 午後2時

閉 会 年 月 日

令和3年5月27日(木) 午後2時27分

会 議 の 場 所

教育委員会室

教 育 長 飯 野 眞 幸

教育長職務
代 理 者 清 水 久 美

委 員 塚 田 展 子

委 員 重 田 誠

委 員 神 宮 嘉 一

事 務 局 (説明員)

教育部長 小 見 幸 雄

学校教育担当部長 山 崎 幹 夫

教育総務課長 小 池 郁 生

社会教育課長 茂 原 久美子

文化財保護課長 角 田 眞 也

中央公民館長 藍 美 香

中央図書館次長 齊 藤 寛 方

教職員課長 岡 田 朝 夫

学校教育課長 橋 爪 幸 雄

健康教育課長 長 岡 誠

教育センター所長 永 井 智 幸

高崎経済大学附属高等学校事務長 新 井 史 代

書記 教育総務課 宮 澤 信 宏

5月27日	会議に附した事件
議案第12号	令和3年度高崎市一般会計補正予算（6月議会提出分）教育費見積書の提出について

高崎市教育委員会 5 月定例会会議録

教育長（飯野眞幸）

これより、高崎市教育委員会 5 月定例会を開会いたします。

それでは、議事日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。

日程第 1 会期の決定といたしまして、会期は、本日 1 日といたします。

日程第 2 会議録署名人の指名といたしまして、会議録署名人に、清水教育長職務代理者と神宮委員を指名させていただきます。よろしくお願いたします。

日程第 3 会議録の承認といたしまして、前回の会議録を事前に送付させていただきましたが、内容について何かございますか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

「なし」とのお声をいただきましたので、会議録はご異議なしと認め、原案のとおり承認させていただきます。

教育長（飯野眞幸）

それでは、本日の議事に入ります。

議案第 1 2 号「令和 3 年度高崎市一般会計補正予算（6 月議会提出分）教育費見積書の提出について」を議題といたします。提案理由の説明をお願いします。

（小池 教育総務課長 から秘密会の申し入れ）

教育長（飯野眞幸）

ただいま事務局より秘密会の申し入れがございましたので、議案第 1 2 号の審議を秘密会とすることでご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

ご異議なしということですので、秘密会といたします。

（秘密会）

教育長（飯野眞幸）

それでは、秘密会による審議を終了いたします。

教育長（飯野眞幸）

以上で、予定していた議事の審査は終了いたしました。事務局からその他、報告等ありますか。

（「特になし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

事務局からは無いようです。それでは委員の皆様から、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

教育長職務代理者（清水久美）

先日、私の子どもが通っていた学校に、学力アップのお手伝いに行ってきました。今まででしたら、地域の方々のサポートがあって、数学のわからない箇所を指導してくださる方もいらしたのですが、やはり、このコロナ禍で今は保護者と教員だけで行っていました。他の地域の学校では、地域の方々や学生等のお手伝いはどんな状況なのでしょう。

学校教育課長（橋爪幸雄）

こういう状況ですので、学校の方も地域のコーディネーターと話を合わせながら、地域の実態に応じてやっていますので、それほど大きな違いはないと思います。

教育長（飯野眞幸）

まん延防止措置が出ましたので、学校のスタンスは若干慎重になっています。期間が6月13日までですので、その後、また体制が変わってくるのかなと思います。

教育長職務代理者（清水久美）

ありがとうございます。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょう。

委員（神宮嘉一）

教えていただきたいことが1点ございまして、ニュースで承知している話ですが、わいせつ教員の対策新法というのが、先日衆議院で通過して今月中に成立することを耳にしています。高崎市において、そういった事件、事案というのは、公立学校では聞いていませんが、例えば、こういった重要な法律が成立するという段階において、教職員の皆さんに対してのセミナーですとか、注意喚起をするような場面はあるのでしょうか。

教職員課長（岡田朝夫）

定例校園長会議の冒頭で、教育長から訓示をしていただいております。先月の校園長会議では、教育長より新法についての話をいただきました。今後、何か事案があった時には、校長先生に注意喚起をお願いしたり、定期的にリーフレットを配布したりと、そういった周知を継続してやっていきたいと考えております。

委員（神宮嘉一）

重要な事柄に関しては、定例校園長会議で訓示ですとか指示があって、それを校園長さんが各学校、施設の職員に伝えるという流れで承知してよろしいでしょうか。

教職員課長（岡田朝夫）

まずは、教頭先生に一通りの指示を伝えていると思います。その後、教職員に伝える必要があるという事項については、会議等の場面で周知をお願いしているところです。

委員（神宮嘉一）

ご丁寧にありがとうございます。

教育長（飯野眞幸）

少し補足しますが、わいせつ教員対策につきましては、このところ色々な政策が出ています。各県で国の指導もありまして、わいせつ教員は、原則、懲戒免職という厳しい措置で、全国で臨んでいます。その懲戒免職を受けた教員は、教員免許状が失効し、返却することとなります。ただ失効しても、一定期間が過ぎると教員免許状が再交付できます。その県では無いと思いますが、他の県で教職に就くということがあるものですから、それも防ごうということになりまして、国の方のデータベースが今まで3年間くらいは、わいせつ教員の追跡ができたのですが、それを今度は40年か、長い期間見られることとなります。そこに登録、事件のあった教員を登録しておけば、ほぼ教壇には立てません。情報は私から校長へは伝えていますが、それを受けて学校の中で、そういう不祥事を起こさないという組織ができています。また、教職員課と教育センターで法律の施行に合わせて協議し、PRしていくというような、そんな対策も立っています。高崎市もかつてそういう事件を起こした校長や教員もおりましたので、決して安心できないと、そういうスタンスで臨んでいきたいと思っています。

委員（神宮嘉一）

ありがとうございました。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

委員（重田誠）

コロナワクチン接種をしている中で、医療機関のワクチンが余った場合、行政職の中の消防士などに対して、年齢に関係なく余ったワクチンで接種するといった形を進めているようです。国の方でも企業単位で比較的早く接種できるような話も出てきています。学校の職員に対しても、高齢者施設の職員と同様に早く接種しても良いのではないかなと感じています。例えば、市の方で行政職に対してのワクチン接種をする段階で、学校の先生とか、そういった人たちを少し早めにやろうといった検討はなされているのでしょうか。まだワクチンは少ないのですが、6月、7月とだんだん増えてくると、何らかの形で、企画してやった方がいいような気がするのですが、そういった話がありますか。

教育長（飯野眞幸）

高崎市においては、上から年齢順に接種していますが、それと並行して行政職を含めてどうしようかという話は、まだ私は聞いていません。そうした話が出ましたら、重田委員がおっしゃるように、教育委員会からそうした意見も出ていますと話ができるのかなと思います。

委員（重田誠）

消防士などはやっていますので、そういった意味で検討していただければと思います。

教育長（飯野眞幸）

他県では、教職員を少し優先して接種させると、そういうような状況も出ていますので、有難いお話です。

他にいかがでしょうか。

委員（塚田展子）

重田先生のご意見にすごく賛成です。東京都のどこかの区では、余ったワクチンがあった時には、教員優先にと言っています。大勢の人と関わる、教員、警察、消防、当然、福祉もそうですけど、もっと早めにやるべきだと思うのです。一人の先生がコロナでお休みするとなると、本当に困るはずなのです。その辺のところは、教育委員から話が出たということで、是非、何かの折に話していただけると有難いです。

教育長（飯野眞幸）

そうですね。この間の新聞報道によりますと、高崎警察署などは沢山の職員が自宅待機になっていると、そういう話もありました。教職員や警察、消防、福祉、そういった方々への出来れば優先的な接種というのでも検討してほしいということ、聞かれたらお話する予定です。

他にいかがでしょうか。

委員（塚田展子）

一人一台タブレットが配られて、先生方は色々な仕事がどんどん加わって非常にハードだと思います。タブレットを渡されて、十分な研修もないままやるというのは、先生方はとても大変なことだと思います。国は配るようには言ったのですが、具体的な研修についてとか、もう少し丁寧な話はあるのですか。

教育センター所長（永井智幸）

国からということよりも、実状に合わせて市の導入している物に対して、いつでも教職員が見られるような手はずを整え、動画を視聴しながらやるとか、または出前でやるとか、業者の方がサポートしてやるとか、多岐にわたってフォローするような形に支援員とあわせて体制を取っています。

委員（塚田展子）

センターは本当に先行してやっていますが、渡したらそれでおしまいではなく、もう少し丁寧に細部を考えていただけたらと思います。

教育長（飯野眞幸）

教育センター所長、ICT支援員の配置状況はどうでしたか。

教育センター所長（永井智幸）

ICT支援員が3名おりますが、現状、学校の先生方が子どもたちに直接よく指導してしまっていて、昨日は支援員の2人が学校を回って、先生のサポートをしましたが、先生が主となって、子どもたちと共にやるという形で、支援員が対応に追われているという状況はありません。

教育長（飯野眞幸）

昨日まで学校訪問を精力的にやってきました。やはり、端末がどう扱われているかを見たかったからです。昨日行った学校では、小学校1年生が端末を持っていて、いわゆるロイロノートを使って、担任の顔写真が自分の目の前のところに来て、それを使いながら作業していました。その学校の体制はとても進んでいるように思いました。若干まだ進んでいる学校と進んでいない学校、セッティングができていないような学校があるようです。そういった中で、小学校1年生がそういうソフトを使って、授業に参加し、それからクラスルームというソフトが入っているのですが、朝と帰りの会のやりとりがリモートでできる、そういうことも訓練していますし、これ以上感染してきたときに学校を閉じなくてはならないという場合には、最低それが出来るようにしておいてほしいということをお願いしています。進んでいる学校とそうでない学校と、若干差が出ているかなと思います。

委員（神宮嘉一）

比較的スムーズに進んでいるところと、もう少しというところとあるようですが、例えば規模による違いとか、傾向というのはあるのでしょうか。

教育センター所長（永井智幸）

規模によるというよりも、協力してやる体制づくりというのを、どのようにしているかが肝心なのかなと思います。タブレットに長けている人がいて、協力してやっている学校は進んでいて、なかなか進まないという学校は我々がサポートしています。

委員（神宮嘉一）

少人数校の方が手当てできる児童数が少ないから、もしかしたら上手くいくのかなと感じてしまいましたが、そういうわけではないですね。

教育センター所長（永井智幸）

児童数が少ない学校は教員の数も少ないので、長けている人がそこにいれば良いのですが、そうでないと大人数の方が1人くらいいる場合がありますので。

委員（塚田展子）

皆さんが得意なわけではないと思うので、スキルアップするような研修システムというものはあるのでしょうか。

教育センター所長（永井智幸）

昨年度末から既に全校体制のものや個別のものと、段階を踏んで順次やっています。

委員（塚田展子）

ありがとうございます。

教育長（飯野眞幸）

端末が行き渡る前にマニュアルは作っていますが、ただ実際にそれをどういうふうに使っていくかという、その呼吸は校内全体で整わないとなかなか難しいものはあります。

委員（重田誠）

学校の先生の中にも、ICTに対するスキルの高い人と、そうでない人がいて、それが高い人がいると引っ張っていつてくれるというような感じになるのではないかと思います。1つ聞きたかったのですが、高崎市のシステムはよくわからないのですが、出席管理などもするのかもしいないと思ひますが、あのデータ自体は、何処かの会社のクラウドを使って学校内にはデータを保存していないということですか。

教育センター所長（永井智幸）

基本クラウドは、グーグル・クラウドを使っています。その他もクラウド的なものは使っています。

委員（重田誠）

例えば、ソフトと学習関係はクラウドのものでやっていると思ひますが、学校内で個別に出席管理をする際のデータ等はどうかっているのですか。

教育センター所長（永井智幸）

子どもたちが使うネットワークという形でのクラウドの利用と、先生方は元々教員向けのシステムがございますので、切り分けながら成績管理については行っています。

委員（重田誠）

グーグル・クラウドは、セキュリティもしっかりしていますけど、学内システムを使っている時にWi-Fiを使っていますから、どうしても入り込まれてしまうこともあると思ひます。今のところ重要なデータは無いからいいのですが、これがもっと色々なことを学内でやっていくとなると、セキュリティの問題が出てくると思ひます。セキュリティ関係については、高崎市はどのようにされているのですか。

教育センター所長（永井智幸）

フィルタリングソフトですとか、セキュリティ関係については、システムも構築していますので、それを随時検証しながらやらせていただいています。

委員（重田誠）

それは市全体としてですか。

教育センター所長（永井智幸）

そうですね。市全体としてやっていますので、個別の学校でということではなく管理しています。

教育長（飯野眞幸）

昨日訪問した特別支援学級の小学生ですけれども、子どもたちが端末を使って授業を受けていました。その端末には、白地図の日本地図がありまして、下から県を拾って入れていくもので、ちょうど位置に合うとはまり、正しい位置に合わないとはだめなのですが、それを物凄ひ早さでやっている男の子がいました。担当の先生が、端末は特別支援の子どもが目が光ると言っていました。今までにない教育が特別支援でも期待できるの

かなと、実際にその子がやっているのを見ていましたけど、凄いです。我々だってできないです。北海道のようなところなら、直ぐに入れられますが、群馬県とか栃木県とか、なかなか入れていくのは難しいです

進んでいる学校とそうではない学校がありますけれども、私はやはり校長の差なのではないかと思います。校長がいかに積極的に活用しようとして戦略を取っているかどうか、それがあある学校はきちんと手が打てる。核がないような場合には、センターにお願いすれば学校に行って研修してくれました。持てる信頼の中で上手くやることと、足りない場合は、センターからの応援をすぐ頼むというような気が利いた学校運営をすれば、そんなに格差は広がらないのではないかと思っています。半分、学校を訪問した後の感想です。学校によって差がつくのは、そういう見解です。

教育センター所長（永井智幸）

そのとおりかなと思います。校長と共に、職員の方でも積極的に活用していると連絡が来ています。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。ないようですので、以上をもちまして、教育委員会5月定例会を閉会させていただきます。

本日は大変ご苦勞様でした。